

4年 国語

「学校案内」の
リーフレットを作ろう

番組名 「お伝と伝じろう」

放送回 第17回「聞き上手になろう」

実践者 千代田区立九段小学校 主任教諭 竹下 佳余

コミュニケーション力を育てる番組です。
「話す・聞く」の授業等における言語活動
のヒントも満載です。

番組の使い方

活用のねらい

本単元では、情報の受け手と送り手という二つの側面をもって表現する力を伸ばしたいと考える。児童は、リーフレットを通して読み手に伝えたいことを考える中で、取材をして新しい情報を入手する必要性に気付く。そこで、本番組を活用し、自分が知りたいことを相手からの確に聞き取る「インタビュー」の仕方について学び、進んで情報を集め作品に生かす力を高める。

具体的な手立て

インタビューについて疑問や不安な点を整理した後、番組を視聴する。

見て分かったと思ったことをすぐに試す「インタビュー体験」、台本を書いて「リハーサル」、「実際のインタビュー」の様子を見合うといった段階を経て、スキルの定着と取材への自信を高める。

授業の概要（3・4・5／9時間目）

単元の目標

関心のあることなどから書くことを決め、書く上で必要な情報を集め、リーフレットを作る。

番組視聴（10分）

・メモはとらない

番組を見て感じたこと思ったことを発表する。

《インタビューに生かせる事柄》

- ・インタビューの前には準備が必要。
①自分が知っていること。②調べて分かっていること③人から聞いて分かっていることを整理しておく。
- ・しりとりの方則を使う。
- ・話がそれても、そのまま話を聞く。

ペアでインタビュー体験（インタビューアと答える人の両方を体験する）。全体で感想を交流する。

- ・インタビュー台本を作る。
- ・リハーサルの様子をみんなの前で発表する。
- ・互いのよい点、改善点を付箋に書き、交換する。
- ・台本を見直す。

- ・代表児童が、実際にインタビューをする様子を見学し、インタビューのイメージをつかむ。
- ・各グループ、インタビューのポイントをとり。

生き生きと学ぶ子どもの姿

番組から課題を把握するとともに、知識を学ぶ

「〇〇について教えてください」という聞き方は、相手に質問の意図が伝わらないことがある。このような気付きは、インタビューの質問構成を見直すよいきっかけとなった。

インタビュー体験やリハーサルを通して、しりとりの方則を使うと、一問一答にならず、会話が続くことを実感した。そして、自分にもインタビューができそうだという自信が高まっていった。

実感の伴った理解と主体的な活動

インタビューの様子を見学した後、「屋上チーム」は、理科支援の先生にインタビューを行った。休み時間を活用し自発的に出かけ、準備した内容に沿ってインタビューをし、嬉しそうに報告してくれた。

指導を終えて

サトルと伝じろうのやりとりを通して、「これならできそうだ」と思ったことを実際に試し、確かな手ごたえを得たこともあり、まだ不十分だと感じたこともあった。そこで、朝の会でもインタビューの機会を設け、スキルアップを図っている。アンケートでは、「分かりやすく伝える方法が分かった」の評価が高かった。対話を成立させる力が大きく伸びたことを一つの自信とし、リーフレット作りへの見通しが広がり意欲が高まるよう、次のステップのスキルアップを図りたい。

